

心をよつめる

第三十七

北九州市内・近郊の寺院の僧侶にお言葉をいただいています。
老後を心豊かに生きるためのヒントとなりますように。

お遍路で縁を紡ぐ

八十八ヶ所といえば真言宗を開かれたお大師さま（弘法大師空海）生誕の地、四国の「四国八十八ヶ所霊場」が浮かびます。お遍路で参拝する八十八あるお寺のことを「札所」と呼び、札所をめぐることを「打つ」と申します。かつて巡礼者が参拝の証として名前や住所を記した木の板をお寺の柱や軒などに打ち付けていたことが由来です。

霊場数は人間の煩悩の数にちなむといわれ、札所をめぐることによってわたしたちの心にひそむ88の煩悩を消し去り、清らかな願いを叶える修行がお遍路です。

遍路修行の間は、常にお大師さまと一緒にあるといわれています。この共に歩き、めぐることを「同行二人（どうぎょうにん）」と申します。一人は自分、もう一人はお大師さまであるという意味合いには、弘法大師にあらわされるところの清らかさ正しさをもった第三者たる自分自身が存在し、わたしたちの日々の歩みや姿勢を見つめ、褒めたり、応援したり、心配したり、



住職 伊津野 亮海 さん



高野山真言宗
高祖寺

八幡西区大畑町 19-1
電話 093-631-4943

諫めたりしているのです。わたしはこの同行二人をお遍路という形で実践させていただく機会がごさいます。

北九州には「帆柱山新四国霊場」という札所がごさいます。黒崎・八幡・戸畑・上津役・香月と皿倉山を囲むように、お寺の境内の隅、山あい、街角にひっそりとたたずんでいます。知る人ぞ知る霊場ですが、独自に調査をして詳細な地図を作成したり、生涯学習講座の卒業のテーマにしたり、定期的に霊場に引き付けられた方があらわれるのも特徴です。

帆柱山新四国霊場のお遍路は通称「千人参り」と申しまして、最盛期には千人の人と見まがう程のお遍路さんが歩いていたそうです。現在は真言僧侶有志にて春・秋とお遍路を行なっておりますが、お遍路の大きな魅力は各地域、各札所に居られるお世話人さまとの触れ合いです。札所と地域を結びつけ、管理や清掃、接待を行う世話人さまの姿に畏敬の念を抱くとともに、ご本尊さまへのお勤めを通じて生まれる心の交流に、感謝と安らぎの気持ちがやみません。

もちろん出会いがあれば別れもごさいます。解散やご逝去によってかわいがってくれたお世話人さまに会えなくなることもあれば、お世話人さんのお孫さんが赤ちゃんを抱っこし、札所で待っていてくれることもあります。すべてが先人が築いてくれた帆柱山新四国霊場からのギフトです。

当霊場が開かれたのは、明治31年（1898）、当時は東京・上野にある西郷隆盛像（高村光雲作）の除幕式がおこなわれたそうですが、令和10年には開山130周年を迎えます。ここで、帆柱山新四国開山九十周年の際に、先代住職である亡父が引用した和讃をご紹介します。

あゆむに遠き山河も 同行二人の御誓願
八十八の遺跡に よせて利益を成し給う

（四国巡拝和讃）

同行二人で心をつめて、遠き遠き山河をも越えて、四国八十八ヶ所のごとき八十八の霊場を巡ることによって、利益を成し遂げたもうという強き心を抱き、新たなお遍路にのぞみたいと思います。

合掌

〈お仏壇のはせがわ〉からのご案内

この度、お仏壇のはせがわ小倉店ではご好評いただいております「法話会」（鳳凰の集い）を再開することになりました。地域のお寺様をお迎えして、仏教について分かりやすく楽しいお話をさせていただきます。ぜひお気軽にご参加ください。

日時 ● 令和8年1月26日（月）
AM11:00～12:00（受付10:30～開始）
場所 ● お仏壇のはせがわ 小倉店3階
（椅子とテーブルをご準備しております）

〈講師〉
浄土真宗 本願寺派 永楽寺
住職 坂本 了一 師

※会場準備等の都合がごさいますので、ご希望の方は1月19日（月）までにご連絡いただければ幸いです。



お仏壇の
はせがわ

小倉北区室町 2-1-3 営業時間／10:00～18:00
小倉店（フリーダイヤル）0120-711-610

